

## 【研究テーマ】

医療チーム管理者によるチーム医療マネジメントと働き方改革（改題）

## 【氏名】

園田幸生、田中秀幸、白井純宏、指田由紀子、松本晃太郎（事務局兼連絡責任者）

## 【所属】

恩賜財団 済生会熊本病院 包括診療部

## 【背景】

チーム医療の実践と、医療スタッフの働き方には正の相関関係があり、質の高い患者中心の多職種によるチーム医療の実践は、患者・医療スタッフ両方にとって、大きな効果をもたらすことが推測される。

## 【研究方法と目的】

チーム医療をマネジメントする医療チーム管理者の全病棟配置を目指し、今回我々は、医療チーム管理者を3階東病棟に配置し、チーム医療マネジメントの実践例を報告すると共に、当該病棟における医療スタッフの働き方への影響、導入によってもたらされる利益や課題等について考察を行った。

## 【結果】

多職種協働のチーム医療として多職種協働によるプライマリケアの実践、多職種ケアカンファランス・ケアラウンドの定期開催、マネジメントに関するセミナーの開催を行った。医療チーム管理者による働き方改革のための取り組みとして、医療チーム管理者優先席の設置、患者情報の共有を容易にするツールの作成を行った。医療チーム管理者導入に関する職員アンケートでは、医師も含めた多くの職員が「メリットがあった」と答えた。さらに業務軽減、患者満足度の向上、診療の質の向上を感じたと、多くの看護師・コメディカルが答えていた。勤務状況、働きやすさについても多くの看護師・コメディカルが「変化があった」と回答した。未破裂脳動脈瘤術後の疼痛において、医療チーム管理者導入前後の疼痛状態の変化に有意差を認めた。

## 【考察】

医療チーム管理者のように、医師自身が様々医療チームをマネジメントし、多職種を巻き込んで効率性の高い医療の質を行うことは、結果として医師のみならず全ての医療スタッフの働き方改革となり、労働時間改善にもつながることが示唆された。